

1 これまでの作業部会におけるコメント

○本会合の企画立案に当たっては、GEO事務局と共同議長がかなりのイニシアティブを発揮する一方、開催国として主張できる場もある。開催国としての主張を本会合の設計にどのように反映していくかが大事。

○若手人材の取り込み、コミュニティの拡大、ユーザー・サプライヤー・民間・政策決定者等の幅広い関係者の巻き込みを図るべき。

2 ご議論いただきたい論点

(1) パネルセッション

○開催国として、優先連携3分野(SDGs、気候変動、防災)のそれぞれについて、具体的にどのような分野のパネリストを推薦すべきか。

(2-1) 展示・サイドイベント(日本としての工夫)

①これまでのJapanGEO展示ブースでは、主要関係機関のポスター掲示やショートレクチャーを実施した。日本の取組をうまく発信するには、具体的にどのようなコンセプト、展示方法でアピールすべきか。

②本会合直前に開催予定のAPシンポジウム(日本主催)の成果をサイドイベントの場でどのようにアピールすべきか。

③若手人材の取り込み、コミュニティの拡大、幅広い関係者の巻き込みを図るためには、どのような仕掛けが必要か。

(2-2) 展示・サイドイベント(GEO事務局への提案)

○GEO全体として、若手人材の取り込み、コミュニティの拡大、幅広い層等の巻き込みを図るためには、全体の展示・サイドイベントにどのような仕掛けをつくるべきか。(例)研究者と民間企業とのマッチングイベント企画等